

編集室

鳥インフルエンザウイルス

昨冬、中国の広東省から主にアジア地域に拡がったSARSは、8461人以上の感染者が発生し、804人以上が死亡し、一旦収束したが、今冬の流行が危惧されているが、現在のところ中国広東省において散発の感染者を数例数えるのみに止まっている。SARSに対する対策の一つとして推奨されたインフルエンザワクチンの接種は、わが国においては前年の1倍のワクチン生産量では不足をきたし、国民の関心の高さを示した。

ところがここに来て新たなインフルエンザの危惧が持ち上がった。高病原性鳥インフルエンザウイルスである。ベトナム、韓国に続いて、隣の山口県で発生した養鶏場の高病原性鳥インフルエンザは、

動物衛生研究所の遺伝子解析で、ベトナム、韓国の発生例と同じ「H5N1型」と特定された。この鳥インフルエンザはA型インフルエンザを原因とする鳥の感染症である。鳥インフルエンザウイルスは、通常鳥とブタ以外の種には感染しない。しかし、97年に香港でのヒトへの感染による6人の死亡があり、ベトナムでは昨年10月から子供を含む5人が死亡した。

もっと危惧されるのは、ブタなどの他の動物を介して、人間に感染する危険性である。元々は鳥のインフルエンザウイルスとヒトのインフルエンザウイルスは遺伝子が異なるため、直接ヒトからヒトへ感染する危険性は少ない。しかし、ブタは鳥とヒトを含む哺乳類のウイルスに感受性があるため、ブタの体内でヒトおよびトリのウ

イルス由来の遺伝物質が混合され、その結果、ヒトからヒトへ容易に感染伝播できる新しい亜型が発生しうる。一旦「ヒトからヒトへの感染」が始まると爆発的に拡がる恐れがあり、感染力からしてSARSに比べても危険とされる。

「世界で数千万人単位の死者が出る可能性も」と指摘するインフルエンザ専門家の声もあるという。

世界的流行が回避可能かどうか、ワクチンの迅速な開発にかかっているが、特許の壁があるという。

【資料】鳥インフルエンザについて
(感染症情報センター)
「<http://idsc.nih.gov/jp/others/topics/flu/torinf.html>」
(山岡 信明)